

# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	国語・国語総合	単位数	2単位	学年・分類	4学年
教科書	新編国語総合(教育出版)			副教材	

## 1 目標

最終学年のまとめとして語彙力と文章読解の応用力を涵養する。

## 2 学習の到達目標

○ 客観的に文章読解する中で、自らの考えを深めたり発展させたりしながら、目的に応じて様々な文章を的確に読み取れるようにする。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	評論 『鏡としての他者』 榎本博明	13	・評論の構造を理解し、今までの自分について振り返り、社会の中の自分の在り方を認識させる。	・評論の文章がどう論理的に展開しているかを確認し、筆者の主張の特徴を捉える。 ・自身の考えを深め、文章にする。
	小説 『卒業』 魚住直子	13	・生活の変化に伴う人間関係の変化や、気持ちの移り変わりについて認識させる。	・主人公の心情の変化を読み取る。 ・主人公の立場を自身に引き寄せ、過去と現在と未来の自分について考えを深める。
2 学 期	評論 『治具』 塚本由晴	14	・筆者の見解を理解し、それについて意見を述べ合えるよう指導する。	・抽象的な表現方法について具体例をてがかりに理解できるようにする。 ・筆者の考えを自身に引き寄せて自己の考えを深める。 ・漢字の知識を深める。
	詩 『二十億光年の孤独』 谷川俊太郎	14	・詩的言語の特徴を学ぶ。 ・作品や作家について学ぶ。 ・作品に即して、各自の考えを正確に話し、文章化する能力が培われるよう指導する。	・詩的言語の特徴を理解できるようにする。 ・作品や作家について理解を深める。 ・作品に即して、各自の考えを正確に話し、文章化する能力が培われるようにする。
3 学 期	表現 『国語常識・敬語表現』	16	・様々な場面で必要な敬語表現について、書く・話す・読むという観点について、生徒に身に付けさせる。	・敬語表現を身に付けるとともに、生徒自身が自らの考えを、言葉にして相手に伝えられるようにする。

## 4 学習者への注意

授業に集中し、授業内容を正しく理解し、自分の考えを的確に表現できるようにする。

## 5 評価の観点・方法

学習態度・提出物・考査の成績等に基づき総合的に判断する。

# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	地理歴史・日本史 A	単位数	3	学年・分類	4 学年
教科書	高等学校 改訂版 日本史 A 人・くらし・未来 (第一学習社)			副教材	

## 1 目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2 学習の到達目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現する。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	近代以前の日本 明治維新と近代国家 近代日本へのあゆみ	39	列強の進出と日本の開国 尊王攘夷と討幕運動 大久保政権の成立 士族の反乱と自由民権運動 松方財政と民衆運動 大日本帝国憲法の制定	・ 明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し、自由民権運動がおこり、国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る、一連の動きを理解する。
2 学 期	産業革命と日清・日露戦争 第一次世界大戦 第二次世界大戦への道	42	日清戦争 産業革命と社会問題 日露戦争 辛亥革命と大正政変 第一次世界大戦 独占資本主義の成立 政党政治と昭和恐慌	・ 日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。
3 学 期	太平洋戦争 戦後改革と冷戦 経済大国化への道	24	満州事変と挙国一致内閣 日中全面戦争 日米開戦と大東亜共栄圏 占領と民主化 日本国憲法と戦後改革 高度経済成長 石油ショック	・ 軍部の台頭の過程と、これにともなう政治的な状況の変化について理解する。 ・ 中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら、太平洋戦争に至る過程を理解する。

## 4 学習者への注意

授業用プリントの書き込み、整理を行うようにする。

## 5 評価の観点・方法

プリントの書き込み、定期テスト、出席状況等を総合的に判断する。

# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	数学・数学活用	単位数	2	学年・分類	4 学年
教科書	数学活用 (実教出版)			副教材	

## 1 目標

数学における基本的な概念や原理・法則の理解を深めて、事象を数学的に考察し処理する能力を高める。数学的活動を通して創造性の基礎を培うとともに数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを積極的に活用する態度を育てる。

## 2 学習の到達目標

- いろいろな場合の数についての理解
- 数学と社会生活の関連についての理解

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	身の回りの数学	1 3	いろいろな場合の数	樹形図を用いた考え方を理解し、計算によって場合の数を求められるようにする。
	数学の発展と人間の活動	1 3	図形と人間	過去や現代の生活の中で数学がどのように活用されてきたかを理解し、知識と生活を結び付けて考えられるようにする。
2 学 期	社会生活と数学	1 4	経済と数学	期待値やローンなどの社会生活の中に存在する抽象的な概念を理解し、計算できるようにする。
	社会生活と数学	1 4	測定と数学 コンピュータと人間の活動	紙の規格、地図の縮尺、坂道の勾配、建物の高さの計測などを理解する。また、2進法の特徴を理解し活用できるようにする。
3 学 期	数学の発展と人間の活動	1 6	数学と文化 図形と人間	カレンダーの数学、スポーツと数学、長さの単位の歴史について理解する。また、黄金比と2次方程式の関係について理解する。

## 4 学習者への注意

毎回の授業に休まず出席をし、授業に積極的に参加することが望まれる。正解不正解の結果や得点だけにとらわれるのではなく、そこに至るまでの過程にも目を向け、課題と同時に自信も感じられるような高い意識をもって授業に臨む必要がある。

## 5 評価の観点・方法

授業態度、出席状況、提出物、定期考査の結果等を見て、総合的に判断する。

# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	コミュニケーション英語 I	単位数	2 単位	学年・分類	4 年・選択
教科書	VISTA English Communication I (三省堂)			副教材	

## 1 目標

1、2 学年の基礎的学習を踏まえて、継続して基礎的英語力の向上を目指す。

## 2 学習の到達目標

- Lesson ごとの新出単語と文法事項を理解できる。
- 英語のリピート練習により、英語の基礎的なスピーキング能力とリスニング能力を高める。
- 基本的な文の構造を理解し、英語の基礎的なリーディング力とライティング力を身につける。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	学習形態	
				家庭で学習すること (学習形態→確認)	学校で学習すること
学 期	Get Ready123	2 6	挨拶の仕方や、日付・天候の表現などを復習する。	基礎事項の復習 ワークシートを使って新出単語、文法、内容理解に取り組みさせる。 PP を用いて単語、英文のリピート練習を行わせる。	英作文への取組 音読練習、リピート練習 パフォーマンステスト
	Lesson 1 Kerama Blue Study it! 英作文への取組		沖縄のケラマブルーの話から、サンゴ礁の役割などを考える。 be 動詞、一般動詞の現在形の学習		
	Lesson 2 Cool Japan Study it! 英作文への取組		留学生マイクの話を通じて日本のクールなものを考える。 現在進行形の用法の学習 Be 動詞+～ing の用法について		
学 期	Lesson 3 Mexican Dishes Study it! 英作文への取組	2 8	メキシコ伝統料理について学習 動詞の過去形 was/were、一般動詞の過去形-ed や不規則動詞を学習。	基礎事項の復習 ワークシートを使って新出単語、文法、内容理解に取り組みさせる。 PP を用いて単語、英文のリピート練習を行わせる。	英作文への取組 音読練習、リピート練習 パフォーマンステスト
	Lesson 4 The Olympics Study it! 英作文への取組		助動詞 can, will の用法の学習 オリンピックの歴史を知る。 I think that～を用いて自分の意見を伝える		
学 期	英作文への取組 Lesson5 Baobabs in Madagascar Study it! 英文法の総復習	1 6	マダガスカルのパオバブの話を通じて環境問題の現状について考える。 不定詞：名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法について学習。 プリントにより英文法の総復習に取り組む。	基礎事項の復習 ワークシートを使って新出単語、文法、内容理解に取り組みさせる。 PP を用いて単語、英文のリピート練習を行わせる。	英作文への取組 音読練習、リピート練習 パフォーマンステスト

## 4 学習者への注意

授業内容は、生徒の理解度等に応じて計画と異なる場合があります。

## 5 評価の観点・方法

中間考査・期末考査と授業のプリント、パフォーマンステスト等で総合的に評価する。

学習内容の達成状況により、各学期の成績から総合的に判断して年間の評価とする。

# 令和5年度 授業概要

教科・科目	工業 課題研究	単位数	2単位	学年・分類	4学年
教科書				副教材	

## 1 目標

○建築・設備に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化・総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的・創造的な学習態度を育てることを目標とする。

## 2 学習の到達目標

- 自ら進んで課題設定をし、計画通りに課題解決に向けた努力を主体的に積極的に行うことができる。
- 【作品制作】作品を制作するための知識・技能を身につけさせる。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	具体的な指導目標
1 学 期	課題研究について  課題の設定 (1) 作品製作 (2) 調査、研究、実験 (3) 産業現場等における実習 (4) 職業資格の取得	26	○オリエンテーション  ○各自の課題、研究対象の決定 ○学習の計画の立案	・研究対象について、分析・評価を行い、適切な計画を立てられる。 ・対象の絞り込みを済ませ、予備調査等を行わせる。 ・年間を通しての課題と各週の授業の計画を設定する。
2 学 期	(1) 作品製作 (2) 調査、研究、実験 (3) 産業現場等における実習 (4) 職業資格の取得	28	○専門的な知識と技術の深化、総合化 ○問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度	・到達度の確認と自らの取り組みに対する自己評価を行うことができる。 ・課題に対する整理・分析・考察、協議を行い、学習に対する評価を行うことができる。
3 学 期	1年間のまとめ・発表	16	○1年間のまとめ 学習のまとめ 学習成果の発表の練習 学習成果発表会	学習の成果を power point や紙面などに適切にまとめ、限られた時間の中で発表することができる。

## 4 学習者への注意

課題研究では、いままでの基礎的・基本的な学習の上に立って、自ら課題を設定し主体的に探究して課題を解決していかなければなりません。将来、ものづくりを担う社会の一員となることを自覚し、自分自身の力で継続的に学習し一定の成果を残してくれることを期待します。

## 5 評価の観点・方法

評価は、課題作品や提出物の完成度、提出状況、作業の進捗状況や作業態度、出席状況を総合的に判断して行います。

## 令和5年度 授業概要

教科・科目	工業 建築工学実習	単位数	2単位	学年・分類	4学年
教科書				副教材	

### 1 目標

- 建築や設備などを学ぶ上で必要な基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用できる能力と態度を育成する。また、一人一人が協力して作業に取り組み、共同で構造物を作り上げる姿勢や態度を育成する。

### 2 学習の到達目標

- ものづくりに取り組む姿勢を身に付ける。
- 安全な作業をこころがけられるようになる。
- 建築や設備工業の基礎的な知識と技術を習得させ、工具の安全な使用方法等の技術を学ぶ。

### 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	家庭で学習すること (学習形態→確認)
				学校で学習すること
1 学期	建築実習を学ぶにあたって	26	事故防止と安全作業 建築技術者の心構え	自他の安全に配慮して安全な行動をとるとともに、自ら危険な環境を改善することができる。
	鋼構造実習 仕上げ実習		金属塗装	建築塗装に関する知識・技能を習得する。
2 学期	CAD 実習	28	JWCAD RC造	JWCADの技能を習得する。
	仮設・基礎実習		墨出し	墨出しに関する知識・技能を習得する。
	仕上げ実習		左官 壁紙の張替え	左官、壁紙の張替えに関する知識・技能を習得する。
3 学期	積算実習	16	数量算出	Microsoft 365 Education ソフト、ICTを活用し、設計図を読む力、計算力の習得と課題を完成させる。
	施工計画実習		工程表	Microsoft 365 Education ソフト、ICTを活用し課題を完成させる。

### 4 学習者への注意

欠席をなくし、毎時間課題に取り組むこと。3学年までに学習した座学の内容について実体験を通して学習するため、実習内容に応じた教科書を持参すること。

なお、刃物や火器を用いた実習が多く含まれるので、安全に十分注意し作業を進めること。

### 5 評価の観点・方法

出席・取り組む姿勢を基本とする。(1) 関心・意欲・態度 (2) 思考・判断 (3) 技能・表現 (4) 知識・理解の4観点を取り入れて客観性をもった評価をおこなう。

# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	工業 建築工学製図	単位数	2単位	学年・分類	4学年
教科書	建築設計製図(実教出版)			副教材	

## 1 目標

さまざまな作図方法を学び習得する。 自らの考えを図面化する。

## 2 学習の到達目標

- 実践的な作図方法を習得する。
- 着彩や添景等の描画方法について学び習得する。
- パソコンを利用しCADでの基本的な作図操作を習得する。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単 元	予定 時数	指導内容	家庭で学習すること (学習形態→確認) 学校で学習すること
1 学 期	建築製図  建築製図	26	フリーハンド  木造住宅の自主設計	基本的な図面をフリーハンドで作図することにより、スケール感や平面の構成などを感覚的に感じ取り、全体の構成を習得する  与えられた条件から自主設計を行う。
2 学 期	CAD製図  建築製図	28	平・立・断面図の一式図作成。  平・立・断面図の一式図作成。	自主設計をもとに、2次元CADの操作を体験・習得する。  自主設計をもとに、手書きによる住宅設計平・立・断一式図面の作成を行う。
3 学 期	手書・CAD製図	16	点景の描画とともに透視図への着彩について学ぶ。	手書き・CADを通して透視図のプレゼンを習得する。

## 4 学習者への注意

課題はすべて完成させて提出することになるので、毎時間の作業を確実に行うことが大切である。

## 5 評価の観点・方法

期限までに図面を完成し提出する。課題図面を読み取ることに重点をおき、理解度の確認として作図を行う。集中して主体的に作業しているかなど、関心、意欲、態度等の総合的な評価を行う。

## 令和5年度 年間授業概要

教科・科目	工業 建築施工	単位数	2単位	学年・分類	4学年(4修制)
教科書	建築施工(実教出版)			副教材	

### 1 目標

建築施工に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

### 2 学習の到達目標

- 建築生産の特徴や建築施工に関する知識について理解を深める。
- 施工方式、工事契約及び施工計画と施工監理に関する知識を習得する。
- 建築測量を含む各種工事に関する知識と技術を習得させる。
- 技術の進展に対応した工法や施工技術について知識を習得する。
- 工事用機械・器具に関する知識を習得させる。

### 3 学習内容と学習上の留意点

学期	単 元	時間	学習内容	具体的な指導目標
1 学 期	建築施工の概要  建築業務  各種工事	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築施工のあらまし</li> <li>○ 施工方式と工事計画</li> <li>○ 仮設工事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築施工の意義や地域・社会へ及ぼす影響について理解させる。</li> <li>○ 建築工事の工程について一連の流れの概要を理解させる。</li> <li>○ 仮設物の概略について学習し、特に足場に関する規定を理化学習させ、資格取得に役立てる。</li> </ul>
2 学 期	各種工事(続き)	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎工事と地業工事</li> <li>○ 躯体工事</li> <li>○ 仕上工事</li> <li>○ 建築物の保全</li> <li>○ 解体工事と環境保全</li> <li>○ 建築物の保守</li> <li>○ 工事用機械について ※ 関連する工事と同時に扱う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根切りや山留の各種工法について理解させる。</li> <li>○ 各構法における規定を理解させ、工事の一連の流れを学習させる。</li> <li>○ 保全の方法について品確法・耐用年数・費用面などから考察させる。</li> </ul>
3 学 期	工事用機械・器具  建築積算	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 工事用機械について ※ 2学期に取り扱わなかった項目について</li> <li>○ 建築の業務</li> <li>○ 概算見積と入札</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 建築工事における工事用機械の名称と作業内容を理解させる。</li> <li>○ 積算を行う目的と基本的な用語について理解させる。</li> </ul>

### 4 学習者への注意

今まで学習してきた建築に関わる知識や経験に基づいて、実際の建築物を建てるための施工法や必要な法規を学びます。したがって、必要に応じて、他の科目の教科書やノート、プリントなどに目を通して予習や復習をしておいてください。また、視聴覚教材を用いることが多く、欠席してしまうと学習内容を理解しにくくなります。

### 5 評価の観点・方法

定期考査(年5回)・小テスト、授業における意欲や態度、出席状況を総合的に点数化し、5段階評価をする。

(おおよその目安は、定期考査・小テストが70%、授業における意欲や態度、出席状況が30%)

なお、実授業回数の1/3以上の欠席がある場合、単位の修得は厳しくなる。



# 令和5年度 年間授業計画

教科・科目	工業 建築法規	単位数	2単位	学年・分類	4学年
教科書	建築法規(実教出版)			副教材	

## 1 目標

建築基準法を中心に建築関連法規の基本的な考え方を理解する。

## 2 学習の到達目標

- 建築関連法規に関する基礎的な知識を習得させる。
- 建築物の設計・施工・管理に活用する能力と態度を育てる。
- 建築物が安全及び衛生上の必要から多くの法規のよって規制されていることについて理解させる。

## 3 指導内容と具体的な指導目標

学期	単元	予定 時数	指導内容	家庭で学習すること (学習形態→確認) 学校で学習すること
1 学 期	関連法規・用語の定義	26	続きのあらまし 手続きに関する機関 建築法規の起源 建築基準法の意義 法規の体系と構成 建築基準法の意義用語と面積算定	実例を通じて理解を深め定着させる。 構造計算のプロセスと構造計算に関し、基本的な事例を通じ理解させる。 防火と避難、建築設備に関するあらましを理解する。
2 学 期	単体規定	28	一般構造についての規定 構造強度についての規定 防火と避難についての規定 建築設備についての規定	建築物の設計から完成、使用を経除去に至るまでの手続きの一連のプロセスを理解する。 自ら計算できるようにする。 実生活に関連させ、居室の採光・換気、天井・床高に関する規定、遮音、階段・廊下に関する規制の算定の基準と方法を理解する。
3 学 期	集団規定	16	都市計画法 建築基準法の集団規定	都市計画法の基本的な考え方、集団規定の考え方を意義や目的とともにその効果について理解する。

## 4 学習者への注意

優先すべきは、積極的に授業に取り組もうとする姿勢をあることを心得えて、焦らず・慌てずに取り組むようにすることが肝要である。また、毎回の授業の振り返りレポートの提出も求める。

## 5 評価の観点・方法

定期考査を実施し、理解度を評価する。また、各学期中に小テストを実施して理解度を確認して、授業への意欲・関心など授業中の態度や発言、ノート検査など総合的に判断して評価する。